

富士市3万年の歴史をたどる



富士市域は人々が住みついて以来、人やモノの移動に大きな役割を果たしてきました。また背後に富士山、前に海と良港を備えた地形は、産業や文化の発展に大きな影響を与えました。

東平遺跡竪穴住居：伝法平から西国久保一帯に営まれた大集落。広見公園内に復元されている

30,000 years History of FUJI CITY
Since people had settled in the area of Fuji city, this area has taken a big role on transfer of people and things. Moreover, the lie of the land, that has Mt. Fuji at the back, the ocean and a good port in front, gave a big influence on development in both industrial and cultural area.

旧石器・縄文・弥生
古墳・奈良・平安
時代

3万年前の足跡

静岡県東部では今から3万年前、愛鷹山南ろくや箱根山西ろくで人が生活を始めたことが遺跡から知られている。旧石器時代と呼ばれるこのころは氷河期に当たり、現在よりも平均で7～8度も気温が低



かった。それでもこの地に人が生活できたのは、愛鷹山南ろくが狩猟や採集に適した豊かな自然に恵まれていたからだと考えられている。

次に続く縄文時代は1万2,000年から2,500年前で、旧石器時代よりも気候が暖かくなったため、人々は広い地域に住むようになり、狩猟や採集によって食料を確保していた。天間沢遺跡は約4,000年前を中心とする遺跡だが、この時期は縄文時代で最も人々の活動が活発になった時期に当たり、人の移動や物資の

天間沢遺跡からの出土品（市立博物館蔵）：縄文中・後期を中心に先土器時代から古墳時代の遺物が発見されている

交易も盛んになっていたことがうかがわれる。さらに、ここに暮らした人々は、採集を中心に食料を得ていたと考えられている。

紀元前200年ころになると、県内に稲作がもたらされ

大和と深く関係した^{するがのくに}珠流河国

3世紀後半から4世紀にかけて大和の王を中心とした倭王権が形づくられると、全国に画一化された形の古墳が見られるようになる。古墳の埋葬者は倭王権と何らかの関係を持っていた各地域の首長であり、特に4世紀末から5世紀初頭のころつくられたとされる全長約100メートルの浅間古墳の主は、後の「^{こくぞうほんぎ}国造本紀」にいう「珠流河国」と呼ばれた地域を支配した首長の墓だと考えられている。

この地域に特徴的なのが^{わかにかみやけ}稚贄屯倉の存在だ。屯倉は5世紀から6世紀にかけて各地に置かれた王室の経済軍事基盤で、主に農産物を王室に納めていた。この稚贄屯倉は6世紀末に元吉原付近に置かれた可能性が高く、浮島沼が海につながる場所にあった港とその施設(役所)を指したものと考えられている。妙法寺のあるあたりは「^{あまのかぐやま}天香久山」と呼ばれていて、大和との

た。人々は水田に適した低湿地帯の近くに集落を営み、稲作を行った。富士市では浮島沼周辺が稲作に適していたらしく、遺跡の多くがこの地域に見られる。

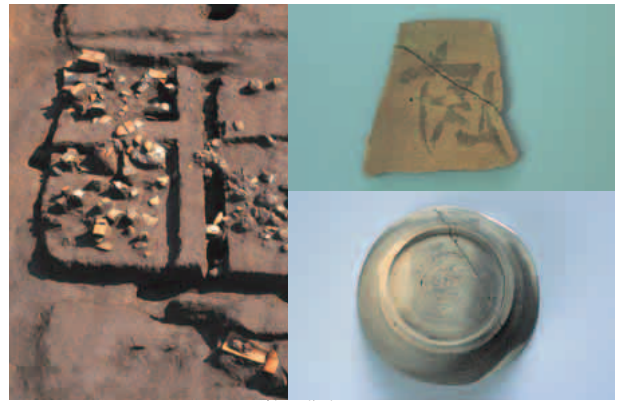
強いつながりが想定されている。稚贄屯倉には「^{あらかつお}荒堅魚」と呼ばれたかつおぶしの半製品状態のものを中心とした水産物が周辺地域から集積され、隣接する港から大和に送り出されていたのかもしれない。



浅間古墳(増川)

律令国家と富士市域

701年に大宝律令が完成し、天皇を頂点とする律令国家が成立すると、地方は国・郡・里(郷)の行政組織によって統治されることになった。当時の富士市域は、駿河国富士郡と駿河郡の一部からなっていた。同時に国家支配に必要な物資と人の移動、情報の伝達を目的とした官道が全国的に整備され、その一つとして東海道がつけられた。この官道には官人の往来を助けるための駅伝制が敷かれ、富士市内にも2つの駅が配された。伝法の^{ひがしだいら}東平遺跡や^{ふち}富知六所浅間神社^{ぐんが}富士郡衙関連施設が置かれたと考えられている。



左: 8~9世紀のかわらや^{ぼくしよどき}墨書土器が多量出土(伝法三日市)
右: 「厨」銘墨書土器(上)と「布自」銘墨書土器(下)。役所などの施設や地名を示す(市立博物館蔵)

治安の悪化と武士団の形成

平安時代になると国司・郡司の対立と内紛や平将門の乱などの発生により、駿河国は治安が乱れ始めた。902年には、富士郡でも郡の官舎が群盗に焼かれるという事件が起きていた。治安が悪化すると、牧や荘園を管理していた地方の有力者が富を蓄え、力をつけてきた。やがて、これらの有力者を背景に、土

着した下級貴族を棟梁とした武士団が形づくられ、武士の時代へと移っていった。